

このpdfは野間秀樹編著『韓国語教育論講座』第4巻(くろしお出版・2008年)の内容見本です。ISBN 978-4-87424-410-4。無断引用はご遠慮ください。『韓国語教育論講座』の詳細は次をごらんください。http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/nomahideki/

韓国の漫画ジャンルと近代(申明直)

## 韓国の漫画ジャンルと近代

—— 韓国語教育としての韓国漫画 ——

申明直(シン・ミョンジク)

### 1. 韓国漫画と近代

韓国漫画が始まったのは、1909年『大韓民報』(대한민보)に紹介された李道榮(이도영)の木版漫画からという見解が一般的である。近代文物の登場とともに韓国漫画も登場したのである。以後、韓国漫画は植民地時期には新聞と時事雑誌を通じて「1コマ漫画」あるいは「短編新聞連載漫画」などの形で現れた。特に1920年代と30年代には正統な形式から脱した文(漫文)と絵(漫画)という意味の「漫文漫画」というジャンルも大衆の前に現れた。

植民地時期の李道榮の漫画が寓話的に当代を諷刺する漫画だったとすれば、漫文漫画は近代文物の流入による希望と、そこに到達できない植民地近代都市の絶望を歌った作品と言える。

解放以後の韓国漫画は、大きく3つに分けうる。その1つは、1950-1960年代の朝鮮戦争(한국전쟁)以後の時期、1970-1980年代の開発独裁と民主化運動期、そして1990年代以後最近に至るインターネットメディアが発達した時期の漫画がそれである。ここでは、これらの各

時期における韓国漫画の様相を5-6種類のジャンルに分けて探る。そしてこれらの韓国漫画を「歴史漫画」と「リアリズム漫画」、「純情(少女)漫画」と「スポーツ漫画」、そして「独立漫画とインターネット漫画」に分けて考えることにする。

韓国の「歴史漫画」も「スポーツ漫画」も、解放以後の前述の3つの時期に照応して現れている。それぞれの韓国漫画のジャンルが韓国の近代をどのように時間的に細分化しているのかも、ここで探らんとする重要な課題の1つである。

「文」と「絵」の言語で成り立つこれら韓国漫画は、韓国語を教育する過程で、非常に立派なテキストの役目を果たしていくだろう。韓国の近代を立体的に内に含む韓国漫画を通じて、韓国語教育はより豊かなものとなることができる。



図1. 李道榮(1909)「挿畫-1」,『大韓民報』,ソウル

## 2. 植民地朝鮮時期の韓国漫画

### 2.1. 李道栄と『大韓民報』

植民地時期の漫画は西欧文物の導入とともに朝鮮にも登場した。たとえば、1906年に発行された雑誌『家庭朝鮮』(가정조선)や、1908年に発行した『労働夜学読本』(노동야학독본)などの挿し絵、あるいは表紙画がそれである。しかし、これら挿し絵や表紙画は、単純に教訓、あるいは学習用途で使われただけなので、本格的な漫画と呼ぶには少し無理がある。

韓国漫画の嚆矢といわれている作品は、1909年に創刊され、1910年に廃刊された『大韓民報』に掲載された李道栄の漫画である。李道栄はソウル生まれの画家で、1906年から徽文義塾(휘문의숙)で美術教師をしていた。そして1909年から『大韓民報』で時事漫画を描き始めた。漫画に対して特別な愛情を持っていた大韓民報社長呉世昌(오세창)の手引きで漫画を描き始めた李道栄(韓国漫画博物館 2003)は、『大韓民報』に最初の作品である「大局の肝衝」、<sup>オセチャン</sup>「韓魂の團聚」、<sup>フィムン</sup>「民聲の機関」、<sup>オセチャン</sup>「報道の異彩」という文が入った、版画を利用した漫画を初めて公開した。これは、『大韓民報』のそれぞれの文字を用いた4行詩で、新聞の使命を述べたものであった。



図2. 李道栄(1909)「任爾頑備自斧傷皮」,『大韓民報』,ソウル

李道栄の新聞漫画の中で一番多く言及される作品は、「他人の真似」(남의 숭내 1909年6月7日)と、「任爾頑備自斧傷皮」(1909年7月25日)である。「他人の真似」は猿のように当時のヨーロッパの文物を真似ていただけの当時の知識人を批判する作品で、「任爾頑備自斧傷皮」は当時親日的な内閣の代表的人物だった李完用(이완용)に対する世間のうわさを、漢字音読の借用を通じて間接的に批判した作品である。「任爾頑備」は李完用の音読を、「自斧傷皮」は「子婦相避」(자부상피)の音読をそれぞれ借用したものと考える(손상익 1996:127)。

このように李道栄の新聞漫画は、日本の植民地となる直前の「大韓帝国」(대한제국)の知識人たちを批判する漫画が多い。特に、日本と共に群れをなして入って来る近代文物を、当代知識人たちがどのように受容するのかに対する、批判と啓蒙が中心となっている。漫画において文の占める比重が低くはあるが、近代初期の韓国語を当代の具体的な社会像と結びつけて理

解することができる素晴らしい作品といえよう。

## 2.2. 安夕影 (안석영) と「漫文漫画」

안석주 = 안석영 (安碩柱) は 1901 年にソウルで生まれる。校洞普通学校を卒業後、1916 年、徽文高等普通学校に入学、高義東 (고희동) などから本格的な西洋画を学ぶ。高普を卒業後日本に渡り、「東京本郷洋画研究所」で美術を学ぶが、身体を壊し、1921 年に途中で帰国してしまう。

安夕影は会話、漫画、小説、詩、音楽、映画など多方面にかけて活躍するが、彼の才能が最も際立ったのは 1930 年代の「漫文漫画」というジャンルからであった。「漫文漫画」とは、正式の文と絵から脱した「歪んだ文と絵」が互いに結合された独特のジャンルのことを言うが、これは 1910-1920 年代、『朝日新聞』などで初公開された岡本一平の「漫画漫文」の影響を受けたものとして知られている。

安夕影の「漫文漫画」の中で一番広く知られているのは「モダンガール (모-던걸) の装身運動」と「モダンボーイ (모-던뽀이) の散歩」という作品である。近代の新文物を受け入れた近代都市、京城 (경성) の新知識人たちの風景をうまく圧縮して見せてくれた作品である。しかし、彼の作品のうち、京城という都市における「近代性」と「植民地性」をよりよく表している作品は、「アスファルトの娘 1—軽気球に乗った粉魂群」(安夕影 1934) と「卓上花の哀歌—夏アスファルトの苦悶」(安夕影 1935) である。

## 3. 韓国の歴史漫画

歴史漫画というものは、歴史小説がそうであるように、当時の時代状況と全く関わりがないわけではない。韓国で歴史漫画が一番多く描かれたのは、1980年代からであったが、それは当時の時代状況が、抵抗の一形態として歴史漫画を必要としたからである。



図 3. 安夕影(1928)「モダンガールの装身運動」・「モダンボーイの散歩」、『朝鮮日報』、ソウル



図4. 李斗號(1996)『林巨正』, ソウル: プレスビル

時代状況とは、言うまでもなく、「民衆」の抵抗を意味する。その抵抗の頂点に立っているのが「林巨正」(임극정)である。かつて1950年代に発表されたパク・クァンヒョン(박광현)の『林巨正』を含めて、70年代に「アダルト歴史漫画」という新しい境地を開いた高羽榮(고우영), 歴史漫画の巨匠房学基(방학기)と李斗號(이두호)がみな、洪命憲(홍명희)原作の小説「林巨正」を漫画化したからである。小説「林巨正」が歴史漫画の正典になったのは、1970-1980年代の民草の苦痛と不満に対して、過去の英雄的人物「林巨正」を通じた代理戦を企てたものだったからである。

歴史漫画として大衆に一番の人気を誇った作品といえば、やはり1970年代韓国の『日刊スポーツ』(일간스포츠)紙に連載されたコ・ウヨンの『水滸誌』

(수호지=水滸伝)であろう。軍部独裁政権によって規範化された道徳律だけが強制された時代、大人の読者をターゲットにした劇画形態の『水滸誌』の連載は真に爆発的な人気を誇った。

その後、歴史漫画のルートに沿った作品はおそらく、李斗號の『客主』(객주)であるだろう。金周榮(김주영)の大河小説を漫画化した10冊の『客主』は原作の細やかな「文字言語」にも負けず劣らず、原作を「絵言語」に変換したと言ってよい。それは、行商人たちの姿1つ1つを、また田舎道の風景1つ1つを、100年という時空を越えて、まさに目の前に再現したかのように描かれているからである。

李斗號が金周榮の『客主』を通じて、疲弊こそしているが、生命力のある朝鮮朝末期の行商人たちの生を描き出したとすると、ペク・ソンミン(백성민)は黄皙暎(황석영)の小説『張吉山』(장길산)を通じて、両班(양반)に抵抗する芸人(광대)出身の義賊をよみがえらせた。まだ民主化運動が本格化する以前に、これらの漫画は、文化を通じた変革という当時の課題に忠実であったと見られる。

このような系譜を形成する作品として特記すべきものは、房学基の『茶母』(다모)である。彼の作品は最近、テレビドラマや映画ともなった。日本ではそ

それぞれ“チェオクの剣”(다모), “刑事:デュエリスト”(형사 Duelist) の名で知られている。

もちろん, 朝鮮朝末の庶民たちのみを歴史漫画の素材にしたわけではない。房



図 5. 許英萬(1987;1996)「オー! 漢江」, 『漫画広場』, ソウル

学基は『感激時代』(감격시대) 3部作を通じて, 植民地期から解放前後にかけた政治やくざであるキム・ドウファン(김두환), イ・ジョンジェ(이정재), シラソニ(시라소니)を描いたし, 『風のファイター』(바람의 파이터) では空手の達人チェ・ベダル(최배달, 本名崔永宜 <sup>チェヨンイ</sup> 최영의 = おおやますたつ 大山倍達) を描いたりした。これらの作品はすべてドラマ化, あるいは映画化され, 『風のファイター』は最近, 日本でも紹介された。

しかし朝鮮の解放期から韓国の現代史を取りあげた漫画として除くことができないのは許英萬 <sup>ホヨンマン</sup> (허영만) の漫画『オー! 漢江』(오! 한강) である。レッドコンプレックス <sup>ハンガン</sup> (허영만) を果敢に脱ぎ捨てて

当時タブーだった素材を劇的に描き出した漫画『オー! 漢江』は, 当時最高の話題作であった。韓国情報機関から資料の提供を受けて描いたという悪い評価が常に付きまとう作品だが, 分断と民主化運動の過程をそれよりもっとよく描き出した作品が珍しいのもまた事実である。

#### 4. 韓国のリアリズム漫画

「リアリズム」という表現が, 「漫画」という単語とよくかみ合わないと言う人



図 6. イ・ヒジェ(1996)『看板スター』, ソウル: グルロングリムバット

1) red complex. 赤色恐怖症。共産主義の脅威に対する誇張され歪曲された恐怖心と, その恐怖心を根拠にした人権弾圧を正当化したり, 容認する社会的心理。朝鮮戦争を経験し, 分断された国土において, 南北が互いに敵対関係を維持して来たという韓国の現実の中, 一般人の心の中に否応なしに忍び入った, 共産主義に対する恐怖心。韓国現代史においては, 政権によってレッドコンプレックスが体制安定と政敵弾圧の手段として利用されもした。